

## **IV 各農業改良普及センターの 重点活動と一般活動の紹介**

## 新たな担い手の確保・育成と女性活躍支援〔重点活動〕

**対象** 対象 女性農業者等

農業の担い手が高齢化する中、地域農業を支える女性の活躍が重要となっている。普及センターでは、令和5年度「女性農業者等キャリアアップ講座」を開講し、女性農業者や新規就農者等の資質向上を進めた。

第1回講座では、山元町の株式会社一蓂一笑を会場に「働きやすい職場づくり」に関する研修を行い、第2・3回講座は、「情報発信の能力向上」をテーマとして、魅力を伝える写真の撮り方やパンフレット作製等について学んだ。

参加者からは、「新たな視点の学びがあり、さらに研修を受けてみたい」等の感想が聞かれ、好評であった。



効果的な写真の撮り方の講義

## 地域農業の維持・発展に向けた農業法人の設立〔重点活動〕

**対象** 柴田町富上地区法人設立準備会

令和5年11月20日に柴田町富上地区に「農事組合法人未来ファーム縄文の郷」が設立された。

同地区は、農家数の減少や高齢化等により、将来の農地管理や地域活動の継続に不安が出ていた。県のは場整備事業の計画を契機に、法人設立を目指す方針となっていた。

普及センターでは、令和5年度県の「地域を守る、集落営農モデル支援事業」による専門家指導と連携を図りながら、地域の話し合いや法人運営に関する支援を行った。

新設法人は農業生産のほか、地区の農家レストランやどぶろく特区に関連した地域活動にも積極的に関わっていくこととしている。



設立準備会メンバーの話し合い

## 若手果樹生産者のワイナリー開設に向けた支援〔重点活動〕

**対象** 七ヶ宿町内の醸造用ブドウ等での新規就農者

対象者は県外のワイナリーで醸造用ブドウの栽培、醸造、販売等の実務経験を積んだ後、令和3年に七ヶ宿町内で新規就農し、醸造用及び生食用ブドウ等の生産を開始した。

生産量が順調に増加していること等から法人化を図り、数年後を目標に現在の委託醸造から自社醸造に切り替えたいと、普及センターに相談が寄せられていた。

そのため、宮城県農業経営・就農支援センターや「令和5年度宮城県農山漁村発イノベーションサポート事業」を活用し、法人設立や事業計画の作成等を支援した。



専門家からの事業計画作成指導

## 多収品種「ふくひびき」に係る技術支援〔重点活動〕

**対象** 角田市農業者4人、JAみやぎ仙南

令和6年産から飼料用米の交付金単価が見直され、一般品種（主食用品種）については、段階的に引き下げられる。このため、JAみやぎ仙南では、今後需要が見込まれる多収品種「ふくひびき」の種子生産に取り組むこととなった。

普及センターでは、JAに対して栽培マニュアルの作成支援や種子生産の技術支援を行い、また角田市内で種子用作付をした農業者に対しては、品種特性を考慮した病害虫防除や適期刈取等について指導・助言を行った。

令和6年産において、引き続き栽培技術の指導等を行い、安定した農業経営の実践を支援していく。



立毛時期の多収品種「ふくひびき」

## 発酵粗飼料用稲「リーフスター」の生産・利用支援〔重点活動〕

**対象** エコファーム蔵王株式会社

地域の自給粗飼料確保に向け、令和5年度から発酵粗飼料用稲（品種：リーフスター）の実証展示ほを蔵王町に設置し、10月に収穫調査及び稲WCS（ホールクロップサイレージ）の刈取作業を行った。

気温が高く推移し、台風が無かったことで、坪刈調査による総生草量は、目標の3.5 t / 10aを越える約4.0 t / 10aとなった。刈取は、裁断長を2～3cmに短くできるデントコーン刈取専用機械を転用し、直径100cmロールを11.6個/10a（サンプル実測値:343kg / 個）収穫でき、良好な結果が得られた。

普及センターでは引き続き飼料価格高騰の解決策として稲WCS等の栽培支援に努めていく。



稲WCS刈取作業の様子

## 農業簿記3級を目指して

**対象** 角田市農業青色申告会会員等（10人）

令和5年6月、角田市農業青色申告会主催で、農業簿記3級の取得を目指す勉強会が4回開催され、当普及センター職員が講師となって、申告会会員や角田市農業振興公社職員ら10人に対し、講義を行った。

受講者は、初めて簿記に取り組む方から長年青色申告をしている方まで様々であったが、多くの質問が出され大変活気のある勉強会となった。

受講生からは「農業簿記の仕組みを再確認できた」等の感想が聞かれた。

普及センターでは、関係機関と連携を図りながら引き続き経営向上のための支援を行っていく。

なお、8人が受験し6人が合格した。



簿記勉強会の様子

## 新規就農者の確保・育成支援〔重点活動〕

**対象** 就農希望者・新規就農者

新規就農の促進及び就農者の経営確立を支援するための相談対応、巡回指導並びに研修会の開催を行った。

就農希望者については、13人延べ26回の相談対応や収支計画作成に対する助言を行うとともに、新規就農者に対しては、営農意欲の継続を支援するため、関係機関と連携した巡回指導を実施した。

また、「みやぎ農業未来塾」を5回（延べ69人）開催した。農業大学校生を対象に地域農業の紹介や就農に対する理解の醸成、就農1～5年目の新規就農者に対しては、農薬適正使用等における知識習得や新規独立就農者からの事例発表を通じて営農意欲の向上が図られた。



みやぎ農業未来塾

## 女性農業者の活躍支援〔重点活動〕

**対象** 女性農業者等

女性農業者は、地域農業の発展において重要な役割を担っており、今後も多様な分野において活躍が期待されている。

普及センターでは、女性農業者等を対象に「女性農業者ステップアップ講座『学んで、食べて、作って、まると大豆セミナー』」を開催した。セミナーでは、女性が農業経営の一部門を担って実践的に活躍している事例のほか、大豆に関する栽培、歴史、栄養成分等について学ぶとともに味噌づくり体験を行った。

この講座では、加工品に利用されることが多い身近な作物「大豆」を通じて、地域や部門を超えた女性農業者同士が交流する機会となった。



味噌づくり体験

## 果樹後継者の育成支援〔重点活動〕

**対象** 果樹後継者

亘理名取果樹振興協議会と連携して、果樹後継者を対象に栽培勉強会8回（参加者延べ60人）、農業簿記勉強会10回（参加者延べ30人）、先進地視察研修1回（参加者10人）、栽培経験年数の短い生産者対象のりんごせん定講習会（参加者13人）を開催した。各活動では、対象者から多くの質問や意見が出されるなど、積極的な参加があり、後継者としての育成が図られた。

また、第62回全国りんご研究大会宮城大会に対象者6人が参加して県内外のりんご生産者と交流するとともに、視察園地となった亘理町結城果樹園の視察準備や大会当日の視察対応を積極的に行った。



りんごせん定講習会

## 耕畜連携の支援〔重点活動〕

**対象** 沿岸部大規模土地利用型作物生産法人

管内の大規模土地利用型農業法人（水稲作概ね30ha以上）28法人を対象に、堆肥の利用等に関するアンケートを実施し、13法人から回答を得た。その内1法人が耕畜連携に意欲的だった。

一方、令和4年度から巨理町及び山元町で大規模畜産経営体が養豚経営を開始したことから、当経営体と生産される堆肥の利用等について情報交換したほか、JAみやぎ巨理と堆肥の利用等について情報交換した。

これらを踏まえ、意欲的な土地利用型法人を大規模畜産経営体に紹介し、今後連携が図られるよう促した。



土地利用型法人の播種作業

## 水稲直播栽培技術の生産性向上支援〔重点活動〕

**対象** 水稲直播栽培導入生産者等

令和5年度の水稲乾田直播栽培面積は、前年度から29ha増加して263haとなっている。また、早期播種試験（2月上旬播種）に2経営体が挑戦するなど、新たな取り組みも見られる。

普及センターでは、乾田直播栽培の生育調査ほ場を2か所設置し、生育状況や管理のポイントについて技術支援と情報発信を行うとともに、古川農業試験場と連携して、水稲直播栽培現地生育検討会を岩沼市の乾田直播ほ場で開催した。これらの支援により、乾田直播に取り組む生産者の技術向上・定着が進み、移植栽培と同等の収量を確保できるようになるなど、生産性の向上が図られた。



水稲直播栽培現地生育検討会

## カーネーション防除技術の向上支援

**対象** 名取市花卉生産組合

名取市花卉生産組合のカーネーション生産者は、化学合成農薬だけに頼らず、天敵を活用する等の様々な防除技術を併用して病害虫の発生を抑制するIPM（総合的病害虫管理）に取り組んでいる。普及センターでは農業・園芸総合研究所の協力を得て、現地実証支援を行った。

名取市内に設置した実証ほ場で現地検討会を開催し、上半期の実証結果を生産者と関係機関で検討し、情報共有するとともに、今後の取組に向けた意見交換を行った。

出席した生産者は、主要な害虫類の防除対策のポイントを確認できた様子で、有意義な検討会となった。



IPM現地検討会

## 新規就農者の確保・育成・定着支援〔重点活動〕

**対 象** 就農希望者及び新規就農者等

意欲の高い農業の担い手を確保、育成するため、市町村のサポートセンターと連携し、就農相談や就農計画作成支援、就農後の経営相談や巡回指導による技術支援を行った。また、「みやぎ農業未来塾」を開催し、新規就農者のスキルアップを図った。「インボイス制度への対応について」についての研修会では、新規就農者や女性農業者10人ほどが参加し、参加者が交流する姿も見られた。

これらの新規就農者に寄り添った支援をとおして、新規就農者の営農意欲は高まっている。



研修会の様子

## 農業法人の経営改善・向上に向けた支援〔重点活動〕

**対 象** 経営改善志向農業法人

管内の多くの農業法人では、設備の老朽化や、経営承継などが課題となっている。そこで、「御用聞き訪問」先として53法人を抽出し、経営課題や決算状況を把握し、課題に応じた技術支援や各種情報提供等を行い、経営改善の取組のきっかけとした。

また、経営者及び若手・中堅社員を対象に、関係機関との共催によるセミナーを2回シリーズで開催し、第三者承継を見据えた、経営の維持拡大に向けた組織体制づくりについて学び、組織内で取組の充実を図る方法について理解を深めることができた。



ステップアップセミナー

## 「シャインマスカット」の産地育成強化〔重点活動〕

**対 象** JA新みやぎあさひなぶどう部会（29人）

基本的な栽培管理技術の習得と販売戦略による販路拡大に向けて、JA新みやぎあさひなぶどう部会を対象として支援を行った。栽培管理等の技術支援として、栽培講習会の開催（5月、7月）や、個別巡回指導、栽培チェックリストを活用した栽培管理技術の平準化等をJAと連携して行った。

販路の拡大等については、昨年部会で作成した販売戦略計画をもとに、販売に関する助言を行った。JA取扱い販売実績は、昨年部会・JAが設定した令和5年産目標出荷量1.2t、販売額300万円に対し、それぞれ1.8t、413万円となり大幅に目標を上回った。



せん定講習会の様子

## 環境制御システム導入経営体の技術向上支援〔重点活動〕

**対象** 環境制御システム導入経営体（トマト、いちご）

環境制御システムを導入した大規模園芸経営体（トマト、いちご）を対象として、課題の抽出や整理、改善に向けた提案、相互の情報交換などを県関係機関と連携して支援した。今年度は想定外の高温による障害で減収となった経営体が多かったが、ウィークリーレポートなどのデータを活用した生産改善に取り組み、適正な生育バランスを維持するスキルが上がってきた。また、全体的に灰色カビ病などの病害発生が抑えられており、飽差管理を始めとした施設内環境制御の技術向上が伺えた。あわせて、生産原価の上昇に対応するため、関連補助事業について速やかに情報提供することで事業の有効活用に繋がった。管内ではコナジラミ類の薬剤抵抗性が課題となりつつあるが、農業・園芸総合研究所と実施した連携調査において、トマトの現地ほ場に設置した振動発生装置により、大規模施設でもコナジラミ類の密度抑制効果が得られており、将来の生産現場への普及が期待される。



コナジラミ類の密度調査

## 中山間地域における高収益作物導入による営農活動定着支援〔重点活動〕

**対象** 仙台市青葉区 株式会社早坂農産、農事組合法人うえすとファーム仙台  
大和町吉田金取北地区

仙台市青葉区の農地整備事業の実施地区では、担い手経営体の経営安定化と農地の有効活用に向け高収益作物（野菜）の導入が進められており、普及センターでは定期的な現地巡回指導による栽培技術の向上支援を行うとともに、関係機関と連携しての話し合いや研修会により、安定生産に向けた技術の習得と体制整備の推進に対する意識の醸成を図った。

大和町吉田金取北地区では、担い手組織の法人化による経営の安定化支援、組織の体制整備支援のほか、法人の方向性を見据えた営農計画の作成に向けた支援を行った。



ねぎ生産を主体とした法人への視察研修

## マンツーマンサポート事業による新規就農者支援〔重点活動〕

**対象** 新規就農者

花き栽培を経営の柱とする新規就農者の販路拡大に向けて、技術力の高い地域の農業者（サポーター）が現地指導を行うマンツーマンサポート事業を活用し、支援を行った。

対象の新規就農者は、比較的作業の少ない冬期間に、暖房機を使い施設を効率的に利用することで新たな品目に取り組む意向があったことから、大崎市古川の先進農家にサポーターを依頼し、市場出荷に向け安定した品質と出荷量を確保するための栽培管理技術や経営感覚を基礎から学ぶ機会を設定した。

複数回の指導により、対象の2人は、さまざまな花き鉢ものの類の栽培技術はもちろん、大量に早く作業するための効率よい動線や動作、所得を上げる工夫など、教科書にはない現場でしか学べない経験を得ることができた。市場出荷の取組に向けて前向きに動き始めている。



2人の熱心さに、サポーターの指導も熱が入る

## 女性農業者の確保・育成・支援〔重点活動〕

**対象** 若手女性農業者等

農村地域で活躍する女性農業者が横につながることで、新しいアイデアや取組の創造を促すことを目指し、若手女性の掘り起こしと女性農業者にとって興味のある学び、そして女性農業者間のネットワーク構築の一助とするため、ハーブ講座を開催した。

講座では、ハーブ工房まーじょらむ代表 阿部 薫 氏を講師に、身近なハーブを再認識し、効能と活用法を学ぶワークショップを行った。参加者は、精油を作る工程やハーブの効能と使い方の説明を熱心に聞く様子が見られたほか、オリジナルのスキนครリーム作りでは、参加者同士が互いに香りを確かめ合うなど、和気あいあいとした雰囲気楽しんでいた。

情報交換では、ハーブの活用や乾燥野菜等、女性農業者ならではの話題がのぼり、地域内の他の女性農業者の活動を知る良い機会となった。



講師を囲んで次々質問

## 下真山地区農地整備事業の推進〔重点活動〕

**対象** 下真山地区農地整備事業推進委員会役員、担い手部会員 等

大崎市岩出山の下真山地区（小坪工区、黄金田一部工区、黄金田二部工区）では、農地整備事業を契機とした地域の営農体制づくりを進めており、令和4年度には若手担い手部会を中心として法人化に向けた勉強会を行った結果、小坪工区での法人化の話合いが活発化している。普及センターでは、令和5年度も引き続き、小坪工区の法人の構成員となる生産者3人を中心に、法人化に向けた話し合いと専門家派遣による勉強会を行った。今後も将来にわたり下真山地区の営農が継続できるよう地区の中心となる若手担い手の法人化を支援していく。



構成員の法人化に向けた話し合い

## さつまいもの安定生産に向けた技術支援〔重点活動〕

**対象** 有限会社ライスアーティスト、JA加美よつば新規栽培者

近年、さつまいもの需要の高まりを受け、県では全農みやぎを中心に園芸作物サプライチェーン推進事業を活用して産地形成を推進している。加美地域においてはJA加美よつばとさつまいもの栽培経験の長い1法人が事業に参加し、生産拡大に取り組んでいる。令和5年には新たに2人がさつまいも栽培に取り組み、JA加美よつば管内の栽培面積は1.7haとなっている。

普及センターでは、新規生産者の定着に向けて、排水対策や土壌診断に基づいた施肥技術向上支援、ベテラン生産者との現地指導を支援した。



新規生産者の現地指導

## 米価下落に対応した稲作安定生産の推進〔重点活動〕

**対象** 金のいぶき、だて正夢、地域ブランド米、直播栽培生産者等

新規ブランド米の「金のいぶき」や「だて正夢」について生育調査を実施し、生育データ及び栽培管理情報を農協や市町村並びにホームページを通じて広く提供した。また、大崎市が推進する地域ブランド米「ささ結」の栽培技術に関する支援を行った。省力化・低コスト生産に対応可能な湛水直播や乾田直播についても展示ほを設置し、同様の情報提供を行った。

また、化学肥料節減とスマート農業に関心を持つ生産者を対象に、試験場と連携してリモートセンシングの取組を行った。



現地検討会の様子

## 畑わさびの産地化が進んでいます

**対象** 管内畑わさび栽培新規取組者等

わさびの消費量は、日本食ブームなどで海外需要が急増しているが、地球温暖化等の影響で国内の生産量が減少しているため、夏季冷涼な東北地域での生産拡大が期待されている。また、畑わさびは、栽培が比較的容易であるほか、イノシシなどの鳥獣害を受け難いこともあり、高齢化や担い手不足に悩む中山間地域にとって期待される品目である。さらにわさび加工メーカーと連携することで、販売面でのメリットも期待される。

令和4年から新規に作付された加美町と大崎市のほ場において、令和5年7月に現地検討会を開催したところ、熱心な参加者が多く見受けられ、さらなる新規栽培希望者が現れるなど、管内での畑わさびの産地化に向けて活発な動きが見られる。



木漏れ日の中のわさびほ場

## 土地利用型園芸作物の安定生産〔重点活動〕

**対象** JA新みやぎ美里ぽてと部会、たまねぎ栽培志向生産者 等

管内では、水田転作を中心に加工業務用のばれいしょやたまねぎの生産が進められている。普及センターでは、各品目の収量向上及び安定生産を支援するため、関係機関と連携して、ばれいしょの品種比較試験やたまねぎの直播栽培の調査を実施した。調査結果をもとに管内に適したばれいしょの品種やたまねぎの播種時期、栽培管理について生産者や関係機関と検討を行い、次作の収量・品質の向上に向けた取組の参考とした。

また、露地野菜生産の拡大を図るため、JA新みやぎと共催で「水田を活用した露地野菜導入セミナー」を開催した。セミナーでは、管内で作付が拡大している直播たまねぎとさつまいもの生産状況について情報提供し、さつまいもほ場の見学を行った。参加者からは、活用できる補助事業や水稻等との輪作体系等の質問があり、露地野菜生産への関心の高さがうかがえた。



露地野菜導入セミナーの様子

## 特色ある米作りを通じた地域振興に関する取組〔重点活動〕

**対象** 「金のいぶき」生産者、松山町酒米研究会

涌谷町は、日本で初めて金が採れた町であることにちなみ、「金のいぶき」を特産品としている。倒伏しやすい品種特性を克服するため、町内生産者全体でケイ酸資材の施用などに取り組み、また現地検討会等で栽培技術の交換を行った。令和5年産では、猛暑の影響で穂発芽など品質低下が見られたが、実績検討会ではこれまで蓄積した生育調査データを分析し、穂発芽を軽減させるための刈取適期や移植時期について、来作に向けて検討した。

大崎市松山では、地元酒蔵と連携した酒米生産が盛んで、なかでも宮城オリジナル酒米品種「吟のいろは」の品質向上を図ろうと、生産者や関係機関と共に生育調査や現地検討会等を開催している。令和5年産では、かつてない高温の中で栽培となったものの、水管理や調査に基づく適期追肥の呼びかけ等により高品質の酒米が生産できた。

作柄検討会では、「吟のいろは」を含めた他の酒米に関しても様々な課題が出され、次年度も継続して品質向上に取り組んでいく。



「吟のいろは」現地検討会

## 新規就農者の確保・育成に関する取組〔重点活動〕

**対象** 新規就農者、農業研修生、教育機関、学生

新規就農者や農業大学校生を対象とした視察研修会（みやぎ農業未来塾）を開催し、土地利用型農業法人から稲・麦・大豆の2年3作体系や野菜導入による周年就労、スマート農業の活用方法について、和牛繁殖農家から飼養管理技術と生産コスト削減対策等について学んだ。

また、若手農業者等を対象とした農業機械研修では、ヤママーアグリジャパン株式会社の協力により、「農業機械の農作業安全」「効率的な耕起・収穫等作業の仕方」「作業機の着脱」などの講習・実習を行い、農業機械の知識や技能の習得を支援した。

さらに、市町、JA等と連携し、巡回指導や研修を通じて新規就農者のスキルアップと早期経営安定を支援した。



美里地区みやぎ農業未来塾

## 持続可能な施設園芸を目指して〔重点活動〕

**対象** JA新みやぎ仙台小ねぎ部会

涌谷町は東北最大級のこねぎ産地であり、活発な部会活動が行われている。近年、連作による土壌病害の発生や塩類集積が要因となって、収量の低下がみられることから、連作障害回避に向けた取組を実施した。

畝立後太陽熱土壌消毒では、夏の高温により土壌温度が高く確保されたことから、病原菌密度が大きく低下し、雑草の抑制にも高い効果が得られた。また、塩類集積対策では、緑肥としてエンバクを秋から冬にかけて生育させたところ、土壌ECが低下する傾向にあった。

今後も、農薬だけに頼らない持続可能なこねぎ生産に向けた取組を支援していく。次年産に向けては、改めて安定収量確保を目指した支援を継続する。



太陽熱土壌消毒の様子

## 地域農業担い手の経営発展に関する取組〔重点活動〕

**対象** 経営発展を志向する経営体

経営発展を目指す農業法人に対し、課題解決に向けた勉強会等を開催した。経営継続・発展に向けた法人間連携及び雇用に関する勉強会や、新設農業法人の経営安定化に向けた事業計画検討会において、関係機関とともに専門家派遣を活用しながら支援を行った。

また、担い手不足と高齢化が進む農業経営の円滑な事業承継に向けて、管内農業者のヒアリングを通して課題把握を行うとともに、研修会を開催し、事業承継に関する理解促進を図った。

令和6年度末までに市町村が策定する地域計画については、関係機関会議や協議の場に参加し、円滑な検討を支援した。



雇用管理勉強会

### 新たな担い手・女性活躍支援〔重点活動〕

**対象** 女性農業者、栗原市生活研究グループ連絡協議会

女性農業者は、地域農業の活性化において重要な役割を果たしている。そこで、令和5年度くりはら女性農業者キャリアアップ講座を4回開催し、女性活躍のための支援を行った。

「栗原市農業女性のつどい」では、農業とマジシャンを両立している農業者の事例を紹介し、多様化する働き方への理解を深めた。「リーダー研修会」では、夫婦が対等の立場で経営を進めていく上での考え方、役割分担について学んだ。「地域資源の利活用に学ぶ」では、農村の地域資源を活用したビジネスモデルを創出し、事業を通して地域コミュニティの活性化に取り組んでいる女性農業者の事例を学んだ。「農作業安全基礎研修会」では、農業機械の安全な使い方を学び、実際の作業を体験する機会を設けることで、農業機械操作及びメンテナンス技術が向上した。

このように、全4回の講座を実施し、対象者個々の資質向上、女性農業者間のネットワークの形成を図った。



くりはら女性農業者キャリアアップ講座

### 地域農業の柱となる園芸作物の生産拡大支援〔重点活動〕

**対象** 管内たまねぎ生産者

県内では、高収益作物の有効な品目として「加工用たまねぎ」の栽培面積が増えている。栗原地域においても、令和4年度から地域振興品目に位置づけ、関係機関と一体となり生産振興を図っている。管内ではさらなる作付面積の拡大および省力化を目指し、令和5年度に初めて2.5haの直播栽培が2経営体で取り組まれており、今後も直播栽培の面積は拡大する見込みである。

普及センターでは、令和5年度から農機具メーカーや県農業・園芸総合研究所と連携し、RTKを活用した畝立て同時播種による省力化や除草体系の確立に向けた支援を行った。6月の収穫に向けて、病虫害防除に対する支援などを継続的に行う予定である。

生産者及び関係機関から期待する声も挙がっており、普及センターでは、たまねぎの直播栽培技術の確立を目標に、令和6年度からプロジェクト課題に位置づけ、収量確保に向けた支援を行う。



RTKを活用したたまねぎの畝立て同時播種

## 地域の核となる経営体の発展を目指した取組支援〔重点活動〕

**対象** 旧有壁新町営農組合

前年度に実施した「地域を守る、集落営農モデル支援事業」のフォローアップとして、旧有壁新町営農組合に対して、あらためて地区の農業法人について考える研修会を開催した。集落営農組合から法人化に移行した事例を外部講師から紹介していただき、法人に関わる者の役割と責任範囲について説明し、参加者の地域での役割を考えてもらった。さらに、法人への参加に向けたアンケート調査を実施し、法人形態や労務提供、法人への出資の有無など個々の考えが明らかになった。今後、普及センターでは、実施したアンケート調査結果を踏まえた法人化計画を地区の方々と共に検討していく予定である。



有壁地区での話し合いの様子

## 優良種子生産支援〔重点活動〕

**対象** 水稻採種組合

管内では、2つの水稻採種組合が優良種子生産を行っている。普及センターでは水稻優良品種の安定生産のための支援を行った。

令和5年度は水稻生育期間を通して記録的な高温となり、平年に比べて生育が進んだことで出穂後の高温対策や刈取り遅れによる品質低下が懸念された。このため、高い品質が確保できるよう現地巡回や審査業務時に肥培管理の注意点等を周知した。また、令和5年の生産終了後に開催された講習会では、当年の作柄概況や高温年の肥培管理等を改めて周知した。生産者からは、例年に比べヒエの発生が目立ったことから雑草対策等の質問があり、活発なコミュニケーションが交わされた。



採種組合栽培講習会

## 地域計画の策定支援〔重点活動〕

**対象** 管内全域

地域計画とは、農業者や地域のみなさんの話し合いをもとに市町村が策定する、地域の将来の農地利用の姿を明確化した設計図である。

栗原市では、令和6年度末までに作成することを目標に、関係機関と打合せを重ねながら事務を進めてきており、10月31日から11月8日にかけて、旧町村単位の10会場で地域の主な担い手を対象に栗原市地域計画策定に関する地域説明会を開催した。

普及センターとしては、説明会等へ出席し、出席者からの意見、質問等の情報収集を行いながら、地域計画の策定を支援していく。



地域計画策定に関する説明会

## 新規就農者の確保・育成に向けて〔重点活動〕

**対象** 新規就農者、就農希望者

就農希望者に対し、個別相談の対応や就農計画の作成を支援するとともに、登米市が定期開催している就農相談会において、関係機関と連携しながら円滑な就農に向けて支援した。

新規就農者に対しては、「登米農業マイスター制度」により、施設野菜や和牛繁殖の新規就農者を対象に、マイスターと連携しながら年間3～4回の技術指導を行い、技術向上と地域農業者との関係づくりを推進した。

また、農業大学校生を対象にした農業士との交流会や、新規就農者を対象にした気象の基礎研修会や簿記研修会を開催し、経営者としての資質向上を図った。



登米農業マイスター巡回

## 登米地域園芸重点品目の生産振興〔重点活動〕

**対象** JAみやぎ登米胡瓜部会、ピーマン生産者及び生産志向者  
JAみやぎ登米りんご生産部会

登米圏域産地戦略プランに掲げる重点振興品目の生産振興と安定生産を図るため、技術支援を行った。

きゅうりの環境制御技術については、若手生産者を対象に、CO<sub>2</sub>発生装置や環境モニタリング機器を活用した管理技術の向上やデータ共有を支援した。

ピーマンについては、基本栽培技術の定着に向け、巡回指導を行ったほか、JAと連携し、栽培講習会、現地検討会、出荷査定会を開催した。

りんごのジョイント栽培については、技術導入者を対象に、早期技術定着に向け、調査研究を活用しながら品種や栽培上の特性に合わせた栽培技術支援を行った。



ピーマン現地検討会

## 地域計画の策定に向けて〔重点活動〕

**対象** 登米市全域（旧町単位）

登米市では、令和6年度末までに「地域計画」を策定することとしており、今年度は、市内9地区ごとに2回の「協議の場」を実施した。

第1回目は地域の課題とその解決策の検討、第2回目は10年後の効率的な耕作に向けた目標地図の原案作成を行い、とりまとめた「地域計画（案）」を、来年度の第3回「協議の場」で提示して広く意見聴取することとしている。

普及センターでは、サブファシリテーターとして運営を支援するとともに、多くの農業者の意見が反映されて地域の指針となる「地域計画」が策定されるよう継続して支援していく。



米山町の「協議の場」

## 資材高騰を背景とした耕畜連携による堆肥等の有効活用支援〔重点活動〕

**対象** 土壌分析利用者

令和4年半ば頃から肥料等の価格が高騰し、農家経営を圧迫している。このため、土壌分析依頼者に対し、分析の結果を踏まえた堆肥の利用と化成肥料の減肥について助言するとともに、管内の有機センターについての情報提供を行った。プロジェクト課題対象者や各地区稲作部会等、主だった生産者に対しては、普及センターで土壌を採取・分析し、分析結果と堆肥の活用について説明を行い、堆肥の活用と肥料費の低減を図った。

併せて、家畜排せつ物法に基づく肉用牛、乳用牛の生産者巡回では、排せつ物の管理や還元状況、耕種農家からの需要についても確認した。今後も、堆肥の有効活用につながるよう、情報提供を中心に支援を行っていく。



水田ほ場での土壌調査

## 農業における経営継承研修会

**対象** 継承志向農業者・組織

次代の登米地域農業発展の主体となる担い手農業者が、安定的に農業経営を継続・発展させるために「農業経営の事業継承」が重要となる。そのため、一般社団法人農業経営支援センター理事を務める等、経営コンサルタントとして長年にわたり農業経営支援を行っている株式会社ケミストリー代表村上一幸氏を講師に招き、経営継承の本質と進め方のポイントについて実際の継承事例を示しながら講演いただいた。参加者からは、「まだまだ先だと思っていたが今から少しでも考えたい」等の意見が聞かれた。今後も、円滑な経営継承につながるよう、関係機関と連携して支援を行っていく。



経営継承研修会

## 女性農業者の活躍支援〔重点活動〕

**対象** 登米地区農村生活研究グループ連絡協議会、アグリレディースネットとめ等

女性農業者グループを対象に「こんにゃくをテーマにしたグループ員研修」、「視察研修会」、「女性農業者のための農機具研修会」等各種研修会を開催した。視察研修会では、仙台市の農業関連施設の見学や農家レストランオーナーの講話を聴講した。農機具研修会では、刈払機の使い方や農作業安全について学ぶとともに、実際にはほ場での操作実習を行った。

また、管内の若手女性農業者を対象に、同世代農業女子とのネットワーク構築を目的に「農業女子会」を開催した。今後も女性農業者の経営促進に繋がるよう、継続して女性の活躍支援を行う。



農機具研修会

## 新規就農者の確保・育成支援〔重点活動〕

**対象** 就農希望者、認定新規就農者、経営開始資金活用者、青年等就農資金借受者等

本年度は13人計33回の新規就農相談があり（令和6年1月現在）、県農活コンシェルジュや管内関係機関と連携しながら対応した。

特に就農希望者が希望する就農スタイルの丁寧な聞き取りや就農に当たっての支援制度などの情報提供、アドバイスを行った他、就農計画策定時には経営シミュレーションの作成を支援し、就農開始時、5年後、10年後の経営イメージを提供、スムーズな就農スタート、安定経営での就農定着を図った。

これらの他にも、農業系のルーツを引く地元高校生を対象に、「農業」を職業の一つとして捉えてもらうため、管内のスマート農業を導入している農業法人や大規模園芸施設の現場を視察する「みやぎ農業未来塾」を開催した。



就農相談（経営シミュレーション作成指導の様子）

## 土地利用型法人への輪作体系の導入推進〔重点活動〕

**対象** 株式会社入沢ファーム、農事組合法人エコルファーム、株式会社サンダーファーム牛田、有限会社アグリードなるせ、農事組合法人おおしお北部、株式会社めぐいと

近年、水田において野菜等の高収益作物の導入が図られており、石巻管内では、ばれいしょやさつまいもの作付けが増加している。特に、ばれいしょは、東松島市に加え、石巻市でも生産が増え、管内全体で令和5年度の栽培面積は41haとなった。令和5年度は、現地検討会や実績検討会などを開催して、栽培技術の向上に取り組んだ結果、目標とする単収3t/10aを超える法人もあった。

また、管内では、子実用とうもろこしの栽培にも取り組んでおり、石巻市の2法人による実証試験では、ドローンによる病害虫防除や専用収穫機械の導入により、実収量は700～800kg/10a程度となり、昨年に比べて格段に収量が向上した。



ばれいしょの収穫

## 法人経営体の経営安定支援〔重点活動〕

**対象** 株式会社デ・リーフデ大川、株式会社デ・リーフデ北上、株式会社イグナルファーム、農事組合法人奥松島グリーンファーム

株式会社デ・リーフデ2社に対しては生育調査や病害虫防除の情報提供により継続的に支援を行った他、特に令和5年度は異常気象による夏の高温で、夏越し作に取り組んでいる株式会社デ・リーフデ大川のトマトとパプリカの生産量が激減したため、次作に向け夏の高温対策の検討を行った。また、株式会社イグナルファームにはきゅうりの生産性向上及び資金繰り計画の作成や財務基盤の安定化などを支援した。農事組合法人奥松島グリーンファームには取組が始まったたまねぎ直播栽培の技術支援等を行った。



デ・リーフデ大川社のオランダ型温室  
トマトとパプリカを生産

## 地域計画の策定支援（重点活動）

**対象** 地域計画における「地域内の農業を担う者一覧」に位置づけられることが見込まれる経営体 等

令和4年5月に農業経営基盤強化促進法の一部が改正され、地域での話し合いにより、目指すべき農地利用の姿を明確にし、次の世代へ着実に農地を引き継ぐための「地域計画」の策定が義務づけられた。

管内2市では計27地区の計画を策定することとなっており、農業委員会、農政関係各課を中心に、農業者等に向けた今後の農地の活用意向調査や地域計画策定会議が生まれ、将来どのように農地を利用していか、地域農業の維持・発展方向についてそれぞれの地区の担い手による話し合いが実施され、必要に応じて助言等を行った。



集落における目標地図作成に向けた地域計画策定会議

## アグリテックの導入推進

**対象** アグリテック導入農業者、及び導入志向農業者

令和5年4月より「宮城県RTK基地局」の運用が開始されたことに合わせて、アグリテック機器の導入状況調査を実施し、1月30日に開催した「水田農業の将来を考えるセミナー」にて管内農業者へ現状と課題について情報提供を行なった。

導入状況調査は令和3年の大規模土地利用型法人へのアグリテック導入調査や県補助事業による導入実績、JA営農センターからの情報提供に基づき集計した。収集したデータからは導入の進む技術、経営体、地域の傾向を把握することができた。また、いくつかの経営体へは聞き取りを実施し、導入におけるメリットや実際の作業を通して明らかになった課題について事例をとりまとめ、HP等により情報発信を行った。

今後もアグリテックアドバイザーや研究機関、機械メーカー等との連携を図りながら、石巻地域のニーズに対応したアグリテックを推進する。



「水田農業の将来を考えるセミナー」の開催

## みどりの食料システム戦略の推進

**対象** 耕種農家、畜産農家、認証制度活用農業者及び志向農業者

みどりの食料システム戦略に係る「グリーンな栽培体系への転換サポート」事業（令和4～5年度）を活用して、水稻の乾田直播栽培において堆肥を施用した減化学肥料栽培等を実証した。本事業で作成した栽培マニュアルや産地戦略及びこれまで被災農地で進めてきたプロジェクト課題「長面地域における大規模土地利用型経営体の持続的な水田農業の実現」で蓄積した土づくりや施肥技術のノウハウを生かしながら耕畜連携を進め、みどりの食料システム戦略の実現に向けた取り組みを行った。

また、みどり認定制度の周知を図ったことにより、管内では株式会社デ・リーフデ北上が、園芸施設において木質バイオマスや地中熱を利用したヒートポンプを導入して化石燃料を削減する計画で県内初のみどり認定を受けた。



事業の取組を紹介したセミナー

## 新規就農者の確保・育成支援〔重点活動〕

**対象** 本吉響高校、農業大学校、認定新規就農者、若手農業者

農業の担い手が減少する中、担い手を確保育成するため、気仙沼地区みやぎ農業未来塾を開催した。本吉響高校の農業専攻の生徒7人に対して、ぶどうやいちごの農作業体験する研修会を開催したところ、農業の魅力を感じ取った様子だった。また、農業大学校の先進農家派遣学習に合わせて、管内農業の概要等事前研修を行った他、巡回指導を行い派遣学習の目標が達成できるよう支援した。さらに、認定新規就農者等を対象に農薬の適正使用や地域農業者と連携した営農活動に関する研修を開催した。参加者からは「勉強になった」という声が多く聞かれた。



農作業体験研修会の様子

## 復興農地で営農する担い手組織への支援〔重点活動〕

**対象** 唐桑大沢営農組合

気仙沼市の唐桑大沢営農組合は、平成30年から営農再開し、復旧した畑地でそらまめやスイートコーン、ゆきななどの生産に取り組んでいる。普及センターでは、巡回指導や土壌分析により作物の栽培管理や病害虫防除について助言指導を行ったほか、除塩のため灌水等の対策を支援した。さらに、経営の安定に向け、今年度、新たにサツマイモの作付けを支援するとともに、既存の電気柵を超え鹿が侵入したため、新たに電気柵を張るなど支援した。



鹿被害のため新たに張った電気柵

## 高級大粒ぶどうのブランド化支援〔重点活動〕

**対象** 南三陸町入谷地区ぶどう生産者

南三陸町では、高単価での取引が期待できる大粒ぶどうの生産が増加している。普及センターでは、生産者と関係機関が連携し、ぶどうの高品質化、ブランド化により、南三陸町産ぶどうの評価向上や有利販売を図るため、協議会の設立に向けて支援を行った。令和5年11月30日に設立総会が開催され、生産者9人で構成する「南三陸大粒（おおつぶ）ぶどう協議会」が設立された。来年度からは、ブランド化に向けた取組が行われる予定であり、継続して支援を行っていく。



協議会設立総会の様子

## 環境データ等を活用した栽培支援〔重点活動〕

**対象** 階上いちご復興生産組合、階上いちご第2復興生産組合、有限会社水山養殖場

環境データに基づく適正な管理を行うため、ハウス内温度、湿度、CO<sub>2</sub>濃度をまとめたウィークリーレポートを活用し、天窓開閉による温度管理、CO<sub>2</sub>施用設定を支援した。また、生育調査を行い、適正な生育量確保のための電照、給液設定の助言を行った。さらに、特に課題となっているアザミウマ類を中心に、要防除水準等を基に化学農薬、天敵資材等の組合せによる防除、発生源となる雑草除去を指導するとともに、研修会を開催し、IPM技術の理解・定着を支援した。



環境データ測定

## 「金のいぶき」の栽培拡大とブランド化支援〔重点活動〕

**対象** 気仙沼金のいぶき協議会

管内の稲作振興に向け、高価格帯の玄米食専用品種「金のいぶき」の栽培拡大やブランド化を図るため協議会設立等の支援を行った。協議会は気仙沼市内の「金のいぶき」生産者6人、米卸小売業者、気仙沼市及びJAで構成され、「海のまち」を活かした貝殻資材の使用、プラスチック被覆肥料不使用を要件としたブランド化に取り組み、県の補助事業を活用したオリジナルパッケージ作成による商品化、試食会の開催等による販促活動を支援した。



完成した商品

## 大規模園芸法人の経営安定化支援〔重点活動〕

**対象** 株式会社サンフレッシュ小泉農園

トマト約2ha、水稻約23ha、高収益作物約1.7ha等の複合経営を行っている法人を対象に、毎月定例会を開催し、情報共有体制を確立しながら、トマトの多収化、気仙沼市とも連携した復旧農地での高収益作物の生産支援、主食用米、飼料用米栽培の効率化に向けた直はの試験栽培を支援し、経営改善が図られた。

また、復旧農地では枝もの用クロマツを取り入れ、農地の有効活用が図られた。令和6年度に向け更なるトマトの多収化、設備導入計画の作成支援を行っていく。



生育中のトマト

## 中山間地域における露地野菜の生産拡大〔重点活動〕

**対象** JA新みやぎ南三陸園芸部会、せり生産者、ねぎ生産者

せりは新規就農者に対し、関係機関一体となり事業活用・栽培技術の支援を行った。

南三陸町と合同では場巡回を行い、現状の課題や今後の作付け計画を聞き取った。また、JAと協力してせり栽培の基礎研修会を開催し、栽培技術の向上を図った。

ねぎでは、南三陸町で大規模な栽培を行う法人に対し、経営向上に向けた支援を行い、GAP指導員資格取得、経営改善計画作成に向けた取組が図られた。



せり収穫に励む就農者の姿